

跡見学園女子大学  
人文学フォーラム

執筆者紹介 (敬称略)

アダム・クリストファー

CHRISTOPHER, Adam (准教授/外国語習得)

香山はるの KAYAMA, Haruno (教授/英文学)

剣持あずさ KENMOCHI, Azusa (准教授/西洋美術史 (15世紀イタリア絵画史))

中山慎太郎 NAKAYAMA, Shintarô (講師/フランス文学)

西田晴美 NISHIDA, Harumi (教授/英語教育)

松井慎一郎 MATSUI, Shinichiro (教授/日本近現代思想史)

水谷長志 MIZUTANI, Takeshi (教授/図書館情報学)

茂木一司 MOGI, Kazuji (教授/美術科教育)

森まり子 MORI, Mariko (教授/中東近現代史、政治思想史)

森谷裕美子 MORIYA, Yumiko (教授/文化人類学)

編集後記

第二十一号をお届けします。

多くの活動がコロナ禍によって制限されてきましたが、徐々に人々の活動制限の緩和や入国再開がなされはじめています。再び動き始めた世界の中にあつて、今号は二つの特集を組み、特集①「他者のことば」に三編、特集②「日本の軌跡」に一編の特集論文をお寄せいただきました。また、二編の論文、三編の研究ノート、一編の学術エッセイをご投稿いただきました。表紙には、柴田眞美教授のご紹介で人文学科四年生・笹本理桜さんの「冬なのに真夏な」を掲載させていただきました。作品の背景について、柴田教授にご解説いただきました。

本年度三月をもちまして、村田宏教授が定年でのご退職となります。これまで真摯に教育と研究に打ち込まれ、ご尽力されましたことに敬意を表します。また、これからのご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。

最後に、今号の完成にお力添えくださいました皆様に心から謝意を表します。「外」の世界にある、ことばをはじめとする異なる文化や教育。これらを見ることによって新たに知る「内」なる日本。その融合と調和から新たなステージに向かって教育・研究活動が一層発展してゆくことを願います。

(編集担当)